

## - クチナシ -



▲クチナシ花



▲クチナシ果実  
東京理科大学 植物園  
(2024/03/04 撮影)



▲山梔子 (サンシシ)  
東京理科大学 生薬標本室  
(2024/03/14 撮影)

学名: *Gardenia jasminoides*

科名: アカネ科 (Rubiaceae)

属名: クチナシ属 (*Gardenia*)

産地: 中国 (浙江、江蘇、四川、山東、広西チワン族自治区など)、台湾、韓国、日本

形態: 葉は対生し、短柄。葉身は長楕円形で、全縁、鋭頭。独特な形の赤黄色の果実をつける常緑低木。

夏、芳香のある6裂の白花を腋生。果実は橙赤熟。

生薬和名: サンシシ (山梔子)

薬用部位: 果実 (ときには湯通しまたは蒸したもの)

性状: 長卵形～卵形、長さ1-5 cm、幅1-1.5 cm。

外面は黄褐色～黄赤色。縦に通例6本の明らかな稜線がある。

上端にがく又はその跡がある。下端に果柄をつけているものもある。弱いにおいがあり、味は苦い。

主要成分: ゲニポシド、ゲニピンゲンチオピクロシド、ゲニピン、 $\alpha$ -クロシン

薬効: 利胆、鎮静、消炎、解熱、瀉心

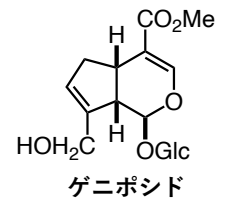
(5年以上の長期投与により腸間膜静脈硬化症が副作用として起こりやすくなるとされる)

漢方処方: 清肺湯、茵陳蒿湯、温清飲、黄連解毒湯、加味逍遙散、防風通聖散

鎮静、消炎、止血、解熱、利胆を目標に精神不安、充血、黄疸などの症状に用いられる。

名の由来: 果実が熟しても開裂せず口を開かないので「口無し」になった等の説がある。

クチナシの下染めに紅花を上掛けして染め重ねられた鮮やかな赤身の橙色を<sup>おうに</sup>黄丹という。皇太子の袍の色で、曙の太陽の色を表し、やがて天位につく皇太子の地位を意味する。



### 【参考文献】

- 『新訂生薬学 改訂第9版』 木村孟淳、酒井英二、牧野利明編集 南江堂
- 『生薬単 改訂第3版』 伊藤美千穂・北山隆監修 原島広至著 株式会社 NTS
- 『薬用植物学 改訂第7版』 水野瑞夫監修 南江堂
- [サンシシ | 生薬一覧 | 日本漢方生薬製剤協会 \(nikkankyo.org\)](http://nikkankyo.org)
- [黄丹\(おうに\)とは? : 伝統色のいろは \(irocore.com\)](http://irocore.com)
- [皇太子黄丹袍姿・明治 大正 昭和時代・洋風の撰取 日本服飾史 資料・風俗博物館～よみがえる源氏物語の世界～ \(iz2.or.jp\)](http://iz2.or.jp)

